

## International Postgraduate Roundtable Research Forum cum Summer School に参加して

広島大学大学院教育学研究科 博士課程  
広島都市学園大学 子ども教育学部 子ども教育学科  
本岡 美保子

毎年、香港教育大学で開催されている International Postgraduate Roundtable Research Forum cum Summer School (以下 IPRRFSS と表記) に、2018 年と 2019 年の 2 回、参加させていただきました。小学校教員から子育て専門期間を経て、保育士として勤務した私にとって、在籍する広島大学大学院での学びすら雲の上を歩くかのようにあり、ましてや海外学会に参加するなど、夢のまた夢。そんな時に大学院の先輩から、私のような学生でも参加できる「学生による学生のための学会」があると教えていただいたのが、この IPRRFSS でした。

IPRRFSS は、アジア地域を中心に世界各国の大学院生等の参加者を募り、研究成果を発信する機会や、院生の国際学術交流の機会を提供してきました。院生主導で運営していること、英語を母国語としない国や地域の院生の国際学会参加へのステップアップの機会を提供していること、院生同士の交流を重視していることが、大きな特徴と言えます。ちなみに 2018 年は、10 カ国以上の国と地域から、約 350 人が参加したそうです。

2018 年、私も広島大学大学院教育学研究科からの派遣学生として、数人の仲間とともに参加させていただきました。派遣が決まってからの 2 ヶ月間というもの、毎週、英語母語話者の先生にプレゼンテーションの指導をしていただきました。英語に自信がなかった私にとっては、わざわざ落胆しに行くような辛いものでしたが、先生はいつも優しく丁寧に教えてくださいました。そして最終日には、「You should be confident!」と言って送り出してくださいました。おかげでなんとか、口頭発表することができました。しかし、参加者からの質問の意味がわからず、一緒に行った仲間が日本語に訳してくれて、やっと答えることができたという始末。また、「アカデミックリーダになるには」と題されたラウンドテーブルでは、参加者としてテーブルについたものの、英語で伝える自信がなく、一言も発せずじまいでした。

初めて参加した国際学会は、このように惨憺たるものでした。しかし、これからの教育や保育に対する熱意を持った人々との出会いによって、日本だけに留まることなく海外にも目を向け、視野を広げる必要があると痛感しました。だからこそ 2019 年、日本人でたった一人の参加者として、IPRRFSS に参加することができたのだと思います。

2019 年 7 月の香港は、逃亡犯条例の改正に対する抗議活動が激化していく、真っ只中にありました。渡航直前まで、本当に IPRRFSS が開催されるのか、危険はないのか、不安でいっぱいでした。それゆえ、香港教育大学にたどり着いた時、懐かしさと安堵感で、自然と涙が溢れたのだと思います。学生たちの明るく親切な対応、取りまとめられておられる Lo 教授の朗らかな人柄と温かな笑顔、1 年前と何ら変わることはない事に安心し、自分の発表に望むことができました。前回からの宿題だった質問への対応も、何とか落ち着いてできました。発表が終わってからも、様々な国の院生や先生が質問に来てくださり、日本の保育に対する関心の高さに驚かされました。そして改めて、研究成果を海外に発信し、ともに手を取り合って、より良い保育を模索していきたいと思いました。

IPRRFSS が来年も開催されるのか、これを書いている 2019 年 10 月の時点ではわかりません。しかし、IPRRFSS がこれからもずっと開催されることを、心から願ってやみません。そして、日本からも、もっと多くの院生のみなさんに参加していただきたいと思っています。私自身は、「学生による学生のための学会」というコンセプトはそのままに、海外の大学院生を呼び込むような学会が日本で開催できないか、夢を膨らませているところです。IPRRFSS の存在を知っていただくことで、国の枠組みを超えた学生同士の学び合いの機会が、様々な形で継承・発展していくことを期待します。